「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（仮称）」の策定に向けた中間整理（素案）について（意見）

京都教育大学　　古賀　松香

これまでの議論を踏まえて、「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（仮称）」の策定に向けた中間整理（素案）をおまとめくださり、誠にありがとうございます。第６回部会欠席のため、意見を事前提出させていただきます。以下、数点あげさせていただいておりますが、特にヴィジョンの理念や根幹にかかわる重要な部分と思われた内容につきましては◎で記載いたしました。よろしくご検討のほどお願い申し上げます。

◎p.5　l.2~8 「大多数に位置付くこども」いう言葉は、ここに書かれている内容と矛盾する線引きを行うものではないか。
→l.2 の「大多数に位置付くこどものみを対象とする・・・」の一文は削除
l.3~「特に、…大事であり、」を削除して「こどもは一人一人満たされるべき多様なニーズをもつ存在である。」を挿入してはどうか。
l.7 グラデーションの中で捉えるというのは、大人がこどもをマスとして捉える見方であり、並べて捉える全体像のような印象を受ける。
l.8 「心身の状況にかかわらずひとしく」というのは発想としては逆ではないか。
→「グラデーションの中で捉えるべきである。その上で」を削除し、「心身の状況に丁寧に応じ、一人一人の育ちを保障するためには、どのような周りの環境（社会）を整えるべきか」に修正してはどうか。
l.17 「大多数と比べて」を削除してはどうか。

◎p.9　l.14~33 の構造について
「安心したい」「満たされたい」「関わってみたい」「遊びたい」「認められたい」の構造をもう少し整理すべきではないか。「満たされたい」の中に「かまってほしい」「愛されたい」という愛着欲求ととらえられるものがあり、それは「安心したい」と重複しているのではないか。「満たされたい」の内容として、生理的欲求に焦点を当てることにすれば、文章最後の「心地よい生活のリズム」というところにつながりやすくなる。そして、この文章はこどもが客体となるような表現が目立つので、表現の工夫をする。また、「関わってみたい」はすべての項目の内容に含まれている表現になり、見出しとしてはふさわしくない。内容的には人間関係のことが書かれているので、例えば「共にありたい」という人との関わりに焦点を当てていることが伝わる表現にしてはどうか。「遊びたい」については、その内容がどうしても偏るので、具体的な内容をいくつか記述するよりは、どのような体験かを記載してはどうか。
→「満たされたい」の文章の変更案
「食べたい」「寝たい」「不快をとりのぞいてほしい」などの思いや生理的な欲求が自分のペースやリズムに応じて満たされることで、心地よい生活のリズムをつくりながら育つ。
→「関わってみたい」→「共にありたい」
→「遊びたい」の文章の変更案
身近な環境にふれて、自分の興味の赴くままに夢中になって遊び、多様な感情を経験していく。心を揺さぶられながら遊ぶことで、自らさまざまなことを感じ、物事の意味をその子なりに捉え、その意味をさらに生かしながら関わることで育つ。

◎p.13　l.25~ この文章には理由が示されていない。なぜ切れ目なく育ちを支えることが問題となるのかを説明すべきではないか。それは、切れ目は社会的な制度（環境）が作り出しているものであり、こどもが生きる主体として受け止められる社会をつくるには、こどもの心身の育ちが丁寧に受け止められつなげられていく社会（環境）を実現する変革が必要だからである。そのことを明確に示すべきではないか。つまり、p.14　l.4 に環境や社会の厚みを増していくことが記述されるが、それとは別に、こどもの育ちを連続したものとしてまなざし、大切につなげていく社会というものもまた実現されるべきであるということをおさえる必要があるのではないか。

◎p.16　l.14~ 「遊び」と「体験」を分けて記述すると、「遊び」は「体験ではない」ということも成り立ってしまうので、分けずに記述した方がよいのではないか。その方が l.17~の内容とも整合する。たとえば、砂と水をまぜて泥だんごをつくるということは、体験でもある。この項目で言いたいことは、体験の中には、自然体験や、芸術や文化に触れることも含まれるということではないか。そうだとすれば、以下のようにしてはどうか。
→乳幼児の育ちの最大の特徴として「遊びと体験」が挙げられる。ここで言う体験の中には、一般的に遊びと捉えられるものだけでなく、自然に触れたり、芸術や、地域行事などの文化に触れて感性を育んだりといった内容が含まれ、これらもまた重要である。

◎p.17　l.9~ 遊びの重要性を社会情動的スキルのみに限定してしまうと、その捉えとしては狭くなってしまう。遊びの重要性は、社会情動的側面と知的側面の両方において重要だということをしっかりと記述すべきではないか。社会情動的側面の育ちと知的側面の育ちは相互に支え合いながら生じていく。遊びの中でこどもは世界を意味づけていくというのは、知的側面の表れでもある。たとえば丸くてきれいな泥だんごをつくりたいとなったときに、失敗しても気持ちを立て直し、やりぬく力が育まれる側面があるが、それだけではなく、なぜ失敗したのか、水の混ぜ方が足りなかったのではないか、もっと細かい砂の方がよいのではないかと考える知的な側面が駆動される。そこに水の意味や砂の粒の大きさの意味がこどもの中で形成されていく。こういったことは知的側面を取り出して育てる発想とは異なり、こどもが主体的に遊びに夢中になることによって一体的に育まれ、結果的にその後の育ちを下支えするものとなるという意味において欠かせないものである。現在の社会に見られる知的側面の早期教育に走る風潮や、そういった内容を保育・幼児教育施設に求める風潮に警鐘を鳴らす意味でも、遊びの本質的な意味を社会に知らせることは重要であり、しっかりと記述すべきだと考える。

○p.21　l.2~ この後の文章との重複が多い。ヴィジョンの文章の後の構造を全体として整理すべきではないか。
（１）ヴィジョンの文章　の後に前置きのような文章があるものもあれば、ないものもあったり、(文章)、＜文章＞、①など、構造がバラバラである。内容に応じてというのはわかるが、一般に伝わる文章としては読みにくいのではないか。

◎p.24　l.18~ 保護者・養育者と保育者は「アタッチメント（愛着)」を形成することだけではなく、「遊びや体験」を促す存在としても重要である。そのことは「安心と挑戦の循環」を支えるという意味において理解されるべきであり、明確に示すべきだと考える。また、保育者は養育や「遊びや体験」の質を保障する専門家であり、保護者・養育者の育ちを支える人でもあるので、保護者・養育者の代替と捉えられるような記載は避け、専門職として位置づけた発信がなされるべきであると考える。

○p.24　l.23~ 親族以外は専門職が多くならんでおり、それ以外は「周囲の大人」と大まかな捉えになり、子育て支援等で重視されている保護者・養育者間のつながりが見えてこないが、このままでよいか。